

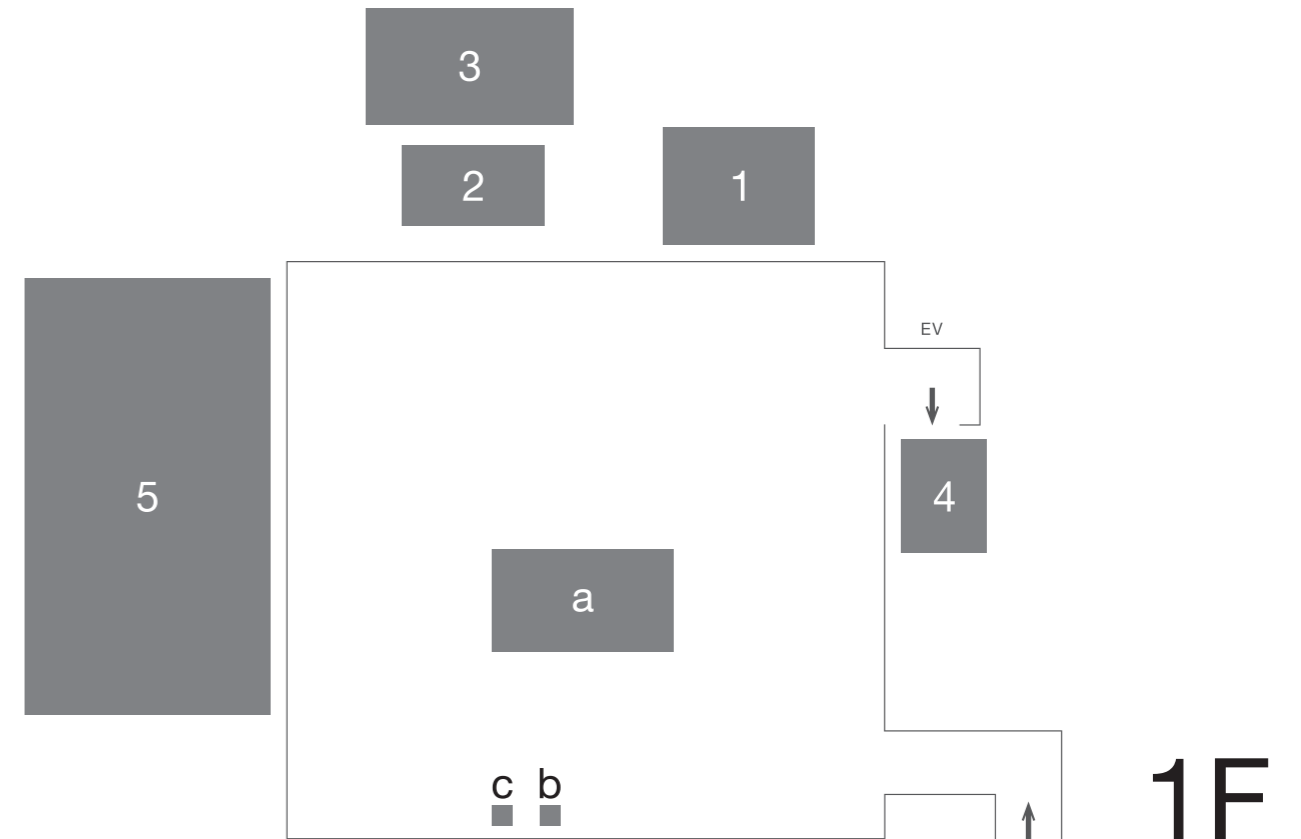
# めぐりあいJAXA—ながのとながめ

2021 6.19 sat → 8.15 sun 9:00~17:00 (展示室入場は16:30まで)

主催=長野県、長野県立美術館 共催=長野県教育委員会

協力=国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、キャノンマーケティングジャパン株式会社、イメージフォーラム

共同キュレーション=澤隆志



1

マヤ・デレン 《夜の深み》  
1952-59 | ヴィデオ (オリジナルは 16mm フィルム)、  
モノラル | 15 分  
イメージフォーラム蔵

2

月周回衛星「かぐや」《月面 2007-2009 年》  
2018 | ヴィデオ、サイレント | 8 分  
©JAXA/NHK 蔵

3

マリアム・カパナゼ 《無住集落》  
2020 | ヴィデオ、ステレオ | 14 分  
作家蔵

4

山崎博 《ヘリオグラフィー》  
1979 | ヴィデオ (オリジナルは 16mm フィルム)、  
モノラル | 5 分  
イメージフォーラム蔵

5, a

陸域観測技術衛星「だいち」《長野 2007 年》  
2021 | ヴィデオ、サイレント | 10 分  
©JAXA 蔵

b

「だいち 3 号」(ALOS-3) 搭載 広域・高分解能  
センサ 模型  
模型 | 1/15 スケール  
宇宙航空研究開発機構蔵 蔵

c

先進光学衛星「だいち 3 号」模型  
模型 | 1/40 スケール  
宇宙航空研究開発機構蔵 蔵

\*1-5の順番でループ上映 (52分)

夜の深み | *The Very Eye of Night*（1952-59）

撮影：アーネスト・ネカナン／録音：ルイス&ビビ・バロン／音楽：テイジ・イトー／助監督：ハリソン・スター／出演：アントニー・チャーダー指導下のメトロポリタン・オペラ・バレエ学校の生徒

<p>マクロ・コスモスとマイクロ・コスモスの法則は似ている。内部の旅は外部空間の旅行のようである。わたしたちはいかなる場合でもわたしたちの表面の周囲を超えて溢れ出し、部分関係が唯一の重心である世界にはいらなければならない。これは全編ネガによる夜のバレエである。ここでは、ダンサーたちは夜空に浮かんで運行する星座である。</p>	<p>——マヤ・デレン——</p>
---	-------------------

マヤ・デレン | Maya Deren

1917年ウクライナ生まれ。1922年アメリカへ移住。40–50年代アメリカ実験映画の先駆的作家であり、コレオグラファー、ダンサー、映画理論家でもあった。初監督作にして代表作《午後の網目》がカンヌ映画祭実験部門グランプリ（1947）。

（S.T.）

<p>月面 2007-2009 年   <i>Moon Surface 2007-2009</i>（2018）</p> <p>月は人類にとって最古の、最大のスクリーンです。その月をスクリーンで観察してみよう。衛星「かぐや」が記録したハイビジョン映像はチョコ、シュレディンガー、フンボルトといった巨大クレーターや“地球の出”を捉えます。21世紀の月世界旅行！</p>
--

<p>月周回衛星「かぐや」  Selenological and Engineering Explorer（SELENE）</p> <p>2007年9月打ち上げの月周回衛星。月の起源と進化の解明のための科学データを取得すべく、高度100kmから月面のさまざまな観測を行う。機体前後にハイビジョンカメラを搭載。2009年6月運用終了。</p>
--

（S.T.）

<p>無住集落   <i>Abandoned Village</i>（2020）</p> <p>村は、人と同じように愛から生まれる。村は、人と同じように愛がなければ朽ちる。</p>	<p>——マリアム・カパナゼ——</p>
--	----------------------

マリアム・カパナゼ | Mariam Kapanadze

1991年ジョージア生まれ。2012年マスキ大学映画監督コース卒業。国立手影絵劇場「ブドルガナ」の俳優として活動中。本作がアニメーション初監督作。

（S.T.）

<p>ヘリオグラフィー   <i>Heliography</i>（1979）</p> <p>写真家・映像作家の山崎博は短編映画《ヘリオグラフィー》において画面の中心に捉えた太陽を16mmフィルムカメラで追跡します。作品の冒頭で頭上に輝く太陽は少しずつ地平線にむかって沈んでいき、ある時点でその姿を消します。しかし赤道儀を取り付けたカメラは被写体が不在となってもなおその運行経路を捕捉し続けます。やがてレンズが地面にむけられ、約30秒にわたり画面が暗転するとき、本作の主題が「太陽」そのものではなく「太陽の動き」であることに気付かされるでしょう。太陽や海、櫻といった普遍的な対象を被写体に映像メディアの本質を問いつけた作家は、本作で「動き」を記録するムービーのメディア性を現前化させます。</p>
---

<p>山崎博   Hiroshi Yamazaki</p> <p>1946年長野県生まれ。日本大学藝術学部を中退後に写真を始める。本展出品作と同名の写真作品シリーズ「HELIOGRAPHY」では長時間露光により太陽の運行を光跡として写真に定着させるなど、ミニマルな方法論で映像メディアの特有の表現を追求。第33回日本写真協会新人賞を受賞（1983）。第26回伊奈信男賞を受賞（1994）。</p>
--

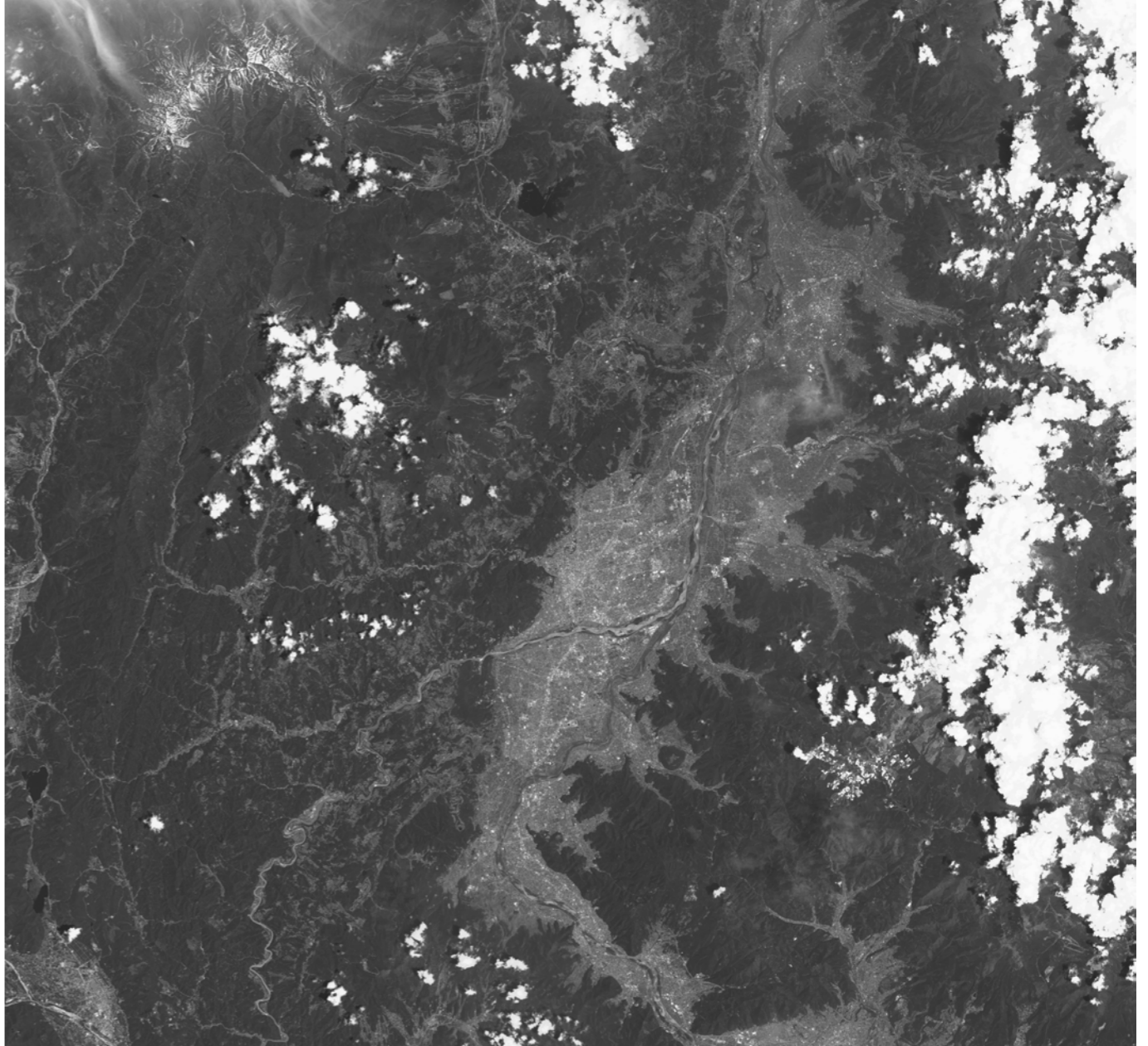
（M.T.）

長野 2007 年 | *Nagano 2007*（2021）

《長野 2007 年》は JAXA が開発・運用する陸域観測技術衛星「だいち」の光学センサによって撮影された長野県の観測映像です。インディペンデント・キュレーターの澤隆志が短編映像上映イベント「めぐりあい JAXA」のために製作を開始した「だいち」シリーズは、これまで青森や島根、静岡、東日本大震災被災地をはじめ国内外各地の観測データを映像作品化してきました。本展のために製作された最新作は、「だいち」が複数回にわたって観測した 2007 年のデータを合成したものです。7000 ピクセル x1 ピクセルの 1 次元 CCD センサ AVNIR-2（高性能可視近赤外放射計 2 型）で地球を観測する「だいち」は謂わば地球規模のイメージスキャナです。普段、災害状況の把握や、海流、植生、都市の変遷を記録するために用いられる観測データは、同時に美しい風景写真でもあります。

<p>陸域観測技術衛星「だいち」  Advanced Land Observing Satellite（ALOS）</p> <p>2006 年に打ち上げられた地球観測衛星。赤、緑、青の可視光領域および近赤外領域の情報を取得する AVNIR-2 センサをはじめ計 3 つのセンサを搭載。地球観測、災害状況の把握、資源探査などを目的とした高精度の環境観測を行った。2011 年運用終了。</p>
---

（M.T.）



陸域観測技術衛星「だいち」によって観測された 2007 年の長野 ©JAXA

<p>関連イベント Screening &amp; Talk</p> <p>日時＝8月7日（土）14:00～／定員＝30名（先着順）／申込＝7/5（9時）申込受付開始。右記QRコードを読み取り、応募フォームからお申し込みください。／登壇者＝度會英教（宇宙航空研究開発機構）、澤隆志（キュレーター）、松井正（当館学芸員）※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、イベント内容の変更や入場を制限する場合があります。</p>
--

